

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	事業進捗状況			事業を進捗内容	事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
					採択年	総事業費	進捗率					
						工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率										
河川事業	8	一級河川木津川	伊賀市	③	【全体事業概要】 全体事業費 10,692百万円 計画延長 (木津川) L=11,400m (服部川) L= 1,000m	H29	10,692	11%	【実施事業内容】 ・築堤 V= 4,300m ³ ・掘削 V= 97,100m ³ ・護岸 L= 1,379m ・橋梁 N= 1橋 ・堰 N= 2基	中下流部は、国道や伊賀鉄道、JR関西本線の駅周辺等を中心に集落が形成されており、依然として河川事業の必要性は非常に高い状況です。近年(平成2年、5年、6年、21年、24年、25年)、浸水被害が発生していることから、早期に治水安全度を向上させることが望まれています。	①地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより氾濫範囲、浸水深が増加し、資産データを最新のデータに更新した結果、資産額が増加したことから、費用便益比(B/C)が増加する結果となりました。 ②河道掘削等による発生土を築堤の盛土材や他の公共事業に流用し、有効利用することで、建設副産物の発生を抑制しコスト削減に努めます。また、横断工作物の改築については、管理者との協議のうえ統廃合を行うことによる改修コストの削減が行えないか検討します。 ③河川改修計画の手法である河道改修に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、地理的な条件、経済性、実現可能性、過去から河道改修を進めてきた経緯、上下流で実施している関連事業の状況等より総合的に判断して、現在進行中の河道改修計画による改修を進めることが妥当であると考えます。	治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。 令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。
					5	8,784	10%	【以降事業内容】 ・築堤 V= 81,500m ³ ・掘削 V= 458,000m ³ ・護岸 L= 12,839m ・特殊堤 L= 600m ・樹木伐採 A= 92,900m ² ・橋梁 N= 5橋 ・堰 N= 7基				
					R28	405	14%	【事業目的】 浸水被害軽減のため、河道の拡幅と掘削、築堤工、護岸工等の施工、横断工作物の改築により流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ります。				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を巡る社会経済情勢等の変化、費用便益分析結果、コスト削減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
河川事業	4	一級河川五十鈴川	伊勢市	③	<p>【全体事業概要】 全体事業費 5,664百万円 計画延長 (五十鈴川) L=3,600m</p> <p>・築堤 V=5,120m³ ・掘削 V=49,800m³ ・護岸工 L=7,040m ・橋梁 N=2橋 ・堰 N=1基</p> <p>【事業目的】 浸水被害軽減のため、護岸整備や河道掘削などの河川改修により流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ります。</p>	H29	5,664	10%	<p>【実施事業内容】 ・掘削 V= 3,100m³ ・護岸 L= 490m</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤 V= 5,120m³ ・掘削 V= 46,700m³ ・護岸工 L= 6,550m ・橋梁 N= 2橋 ・堰 N= 1基</p>	流域には国道23号・国道42号・JR参宮線・近鉄鳥羽線等のこの地方の根幹をなす交通網の拠点があるなど、伊勢市を中心とした地域の社会・経済・文化の基盤をなしています。県管理区間上流には伊勢神宮があり、周辺には豊かな自然環境が残っています。伊勢神宮には、数々の重要な文化財が存在するほか、昔の街並みを再現したおかげ横丁が隣接しており、毎年多くの観光客が訪れています。このような状況から、河川事業の必要性は非常に高い状況です。	①地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより氾濫範囲、浸水深が減少したことや、近年の事業実績を基に維持管理費を精査した結果、費用便益比(B/C)が減少する結果となりました。 ②河道掘削等による発生土を築堤の盛土材や他の公共事業に流用し、有効利用することで、建設副産物の発生を抑制しコスト削減に努めます。また、護岸の構造や工法選定の際には適宜経済比較等を行い、コスト削減に努めます。 ③河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、『ダム案』は流域の大部分が平地であり、ダムの適地はなく、また『遊水地案』は遊水地による洪水調節では広大な敷地が必要となります。このため沿川に広がる広大な農地を犠牲にすることになり、設置が困難です。過去から河川改修を進めてきた実績もことから、河道改修が妥当と考えています。	治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。 令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。
							2,227	24%				
						R28	685	3%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を巡る社会経済情勢等の変化、費用便益分析結果、コスト削減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進める社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
河川事業	5	一級河川 松尾川	伊勢市	③	【全体事業概要】 全体事業費 6,174百万円 計画延長 (松尾川) L=1,660m ・築堤 L=160m ・掘削 V=84,000m ³ ・護岸工 L=2,334m ・道路橋 N=2橋 ・歩道橋 N=2橋 ・水路橋 N=2橋 【事業目的】 浸水被害軽減のため、護岸整備や河道掘削などの河川改修により流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ります。	H29	6,174	8%	【実施事業内容】 ・護岸工 L=80m ・水路橋 N=1橋 【以降事業内容】 ・築堤 L=160m ・掘削 V=84,000m ³ ・護岸工 L=2,254m ・道路橋 N=2橋 ・歩道橋 N=2橋 ・水路橋 N=1橋	伊勢市の中心部を流域に持つ松尾川は、流域内の約3/4は市街地であり、JR線、近鉄線等の鉄道や主要幹線道路の国道23号など交通網が整備されています。また、沿川は大型商業店舗が進出しており、災害医療拠点である伊勢赤十字病院(平成24年1月)が開院しています。このような状況から河川事業の必要性は非常に高い状況です。	① 地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより氾濫範囲、浸水深が減少した結果、費用便益比(B/C)が減少する結果となりました。 ② 河床掘削等による発生土を他の公共事業に流用し、有効活用することで、建設副産物の発生を抑制しコスト縮減に努めます。護岸の構造や施工に関して、新たな技術開発があった場合には、適宜比較を行いながら、周辺環境にも配慮して、経済性に考慮した新技術や工法の導入を図っていきます。 ③ 河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、『ダム案』は流域の大部分が平地であり、ダムの適地はなく、また『遊水地案』は流域周辺の開発が進んでいる中で、新たに用地を取得することや、補償することは困難です。過去から河川改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。	治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。 令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。
						S	5,783	18%				
						R28	285	46%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を進める社会経済情勢等の変化、費用対便益分析結果、コスト縮減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進捗内容	事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
						採択年	総事業費	進捗率				
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
河川事業	6	一級河川大内山川	大紀町	③	<p>【全体事業概要】 全体事業費 2,569百万円 計画延長 (大内山川) L=6,900m</p> <p>・築堤 V=2,343m³ ・掘削 V=380,000m³ ・護岸工 L=2,651m ・橋梁 N=2橋</p> <p>【事業目的】 浸水被害軽減のため、河道掘削、築堤工、護岸工などの河川改修により流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ります。</p>	H29	2,569	25%	<p>【実施事業内容】 ・築堤 V=1,322m³ ・護岸工 L=580m</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤 V=1,021m³ ・掘削 V=380,000m³ ・護岸工 L=2,071m ・橋梁 N=2橋</p>	<p>大内山川沿川には、国道42号やJR紀勢本線が並走しています。紀勢自動車道は、令和3年8月に尾鷲北IC～尾鷲南IC間の延長5.4km区間が供用開始となり、これにより 熊野大泊ICまで全線区間が開通し、交通の利便性や物流の安定性が向上しています。</p> <p>近年(平成16年、平成23年)浸水被害が発生していることから、早期に治水安全度を向上させることが、望まれています。</p>	<p>①地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化した結果、浸水範囲が減少したことや河床掘削にかかる事業費の見直し、近年の事業実績を基に維持管理費を精査した結果、費用便益比(B/C)が低下する結果となりました。</p> <p>②河床掘削等による発生土を築堤の盛土材や他事業に流用し有効利用することでコスト削減に努めます。護岸の構造や施工に関して、新たな技術開発があった場合には、適宜比較を行いながら、周辺環境にも配慮して、経済性に考慮した新技術や工法の導入を図っていきます。</p> <p>③河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、『ダム案』は河川沿いに国道42号やJR紀勢本線が並走し、集落が点在していることから、ダムサイトとしての適地はなく、また『遊水地案』は山あいに位置しており、遊水地として必要となる広大な土地が無く、適地がありません。過去から河川改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。</p>	<p>治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。</p> <p>令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。</p>
							2,369	26%				
						R28	44	9%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を巡る社会経済情勢等の変化、費用便益分析結果、コスト削減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。